

# 第3回公園づくりワークショップ 開催報告

平成27年12月8日(火)18:30から、女川町役場で、第3回公園づくりワークショップ「観光交流エリアの楽しみ方」を開催しました。東北学院大学の学生さんも各グループに参加し、ワイワイにぎやかなワークショップになりました。

## 24年度、25年度のワーキンググループからの提案

- 平成24年度は、まずは震災前のイベントを復活させ、さらに集客力を高める海のコンテンツを整備する必要性が挙げられた。そのひとつに、震災前小乗浜にあったマリナを中心部に持ってくるという意見も出た。
- 平成25年度は、プロムナード、メモリアル公園などの計画が具体化してきた段階であり、観光交流エリア検討チームを立ち上げ、他の被災地との差別化を図るべく、「くどける水辺」をコンセプトとして打ち出し、ロマンチックな空間演出のアイデアが出された。このコンセプトは、プロムナードの照明計画にも反映されている。
- 一方で、震災前の港町の雰囲気や継承も大事との視点から「海・島・船・水と触れ合えるまち」というコンセプトも打ち出した。

## 観光交流エリアへの想い（町長より）

- 観光交流エリアがどのようなデザインになるかによって、町全体のデザインが決まってくるような気がする。
- このエリアの考え方の根底にあるのは、ここに住む我々や町に来ていただく方々が、自分自身で自由に楽しみを生み出せる空間にしていけることである。そんな空間を多く作っていくことが、これからの女川のまちづくりであると考えている。
- 女川は海の町であるが、震災前、この海辺の空間が日常生活空間の一部になっていたと思う。海外に行くと、海辺のベンチで横になったり、本を読んだりする風景が日常の中にもいっぱいある。新しい町を作っていくにあたり、そんな風景が日常生活の中で普通になっていってほしい。
- ワーキンググループで出たコンセプト「くどける水辺のあるまち」。被災地でこのような大胆なコンセプトが考えられる女川はいいなと思う。楽しみ方は人それぞれであり、自分だったら、自分の子どもだったら等の切り口も様々あると思う。楽しい空間にしていけるような皆さんのアイデアを、是非いろいろいただきたい。

## プレゼンテーション「海と暮らすまちづくり」

まちづくりデザイン会議シンボル空間検討部会の小野寺部会長から、海外の事例等を織り交ぜながら、海が身近にある女川のまちづくりのポイントを説明いただきました。

- 「海と暮らすまちづくり」に重要なのは、3つ。
  - ①まちが海に向いていること
  - ②まちと海を距離的かつ心理的に近づけること
  - ③海辺が人が歩ける場所として繋がっていること
- まちが海に近いということだけで、それが「資源」になり、海のある生活や産業風景はそのまま、まちの「財産」になる。たとえ水辺から離れていても、そこからキレイな海が見えるというのは、そのまちの価値である。
- 地中海の漁村であるフランス・マントンでは、海とまちの高低差を利用し、その段差の中に駐車場やポート置場を設置することで、まちと水辺が近く感じられる工夫をしている。
- 女川でも、駅やプロムナードなど、まちが海に向くような仕掛けはつくってある。駐車場や道路、マリナル広場などのまちの記憶も活かしながら、シンプルに作りたいたいと考えている。

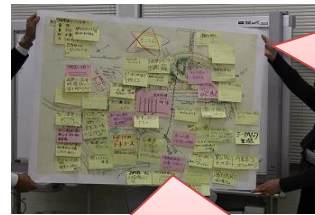


- 観光交流エリアは法律上の公園ではないので、遊具や施設などの設置に制約があるが、駐車場や園路等は作れるし、簡単なものなら作れる。
- それらを活かして、シンプルにさりげなく、くつろげる場所としてイメージしている。
- 水辺をただ歩いているだけでも、海と船があり、芝生があり、背景にまちがある豊かさを感じるのが女川ではできると考える。
- 普段はただの駐車場でも、海辺でにぎわう場所になるようにあらかじめ用意しておくことも重要である。
- また、女川でも国道と海辺の高低差を活かして、人が休憩したり、イベントや商売ができるような仕掛けが出来ればよいと考えている。
- フィッシャリーナの構想はあるが、皆さんの想いで実現させてほしい。まちのそば、人の場の近くに船があることは大事。
- まちがあって、海が近くて、船が泊まっていて、駐車場がある。そこに生きた産業風景があり、皆さんが楽しむ場が実現できれば、観光客は勝手にやってくる。

## グループワーク「観光交流エリアの楽しみ方」 概要（アイデアは裏面にも記載）

「あなたなら、観光交流エリアをどのように使いますか？」をテーマに、震災前の思い出や小野寺氏のプレゼンテーションを参考に、日常生活において観光交流エリアで「こんなことがしたい」「こんな活用をしていきたい」というアイデアを出してもらいました。また、デザイン案に対する意見も併せて出してもらいました。

### グループ1



震災前のマリナルで体験できたような生きた魚に触れられる施設がほしい。

「方こう石」のレプリカのような、女川独特のお土産がこのエリアにあってもよいのではないだろうか。

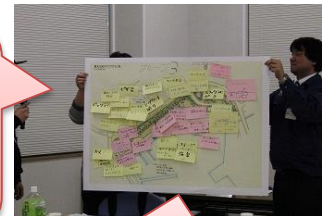
### グループ2



通路の高低差を緩和するために、斜めに横切る通路も検討してほしい。

子ども達が安心して遊べる空間にするために、車両の通行を時間や場所を区切ってほしい（定期的な歩行者天国等）

### グループ3



海辺と国道の高低差を活かして、壁に絵が描けるスペースがあると、まちの色合いにもなっていくのではないかと

イベントがしやすいスペースにしたいため、搬入用道路の確保やコンセント、倉庫等がほしい。ただし、子どもたちの安全確保との両立は必要。

### グループ4



子どもたちの安全を考えると、海辺に柵等の工夫がないと、海を近くに感じにくいのではないかと。

結婚式ができればいいな。震災で写真をなくした人もいるので、そういう人がまた式を挙げる場所になってほしいのではないかと。

### グループ5



老若男女、毎日集える場所として、海や砂で遊べる、ランニング、読書ができる場所、こがこぎ体験などのアイデアが出ました！

女川棧橋から見る朝日、市場の裏に沈む夕日もきれい。これらは投資のいらぬ絶景スポット。

### グループ6



海水だけでなく、真水でも遊べる空間があった方が、子どもたちにはいいのではないかと。

安心安全対策として、道路の飛び出しへの配慮や速度規制、岸壁にはしご等が設置されているといいのではないかと。

## ～ 全体総評 ～

【町長】このエリアが町の肝になり、みなさんでどのように使っていくかが大切である。そのための仕掛けを今日はたくさん出してもらったと思う。安全に過ごせるようにすることは、行政側の課題でもあり、しっかりとやっていきたい。

【デザイン会議・平野委員長】「多目的は無目的」という言葉があるが、様々な使える空間を作ると、結局は何をするにも不便になる。今回は、皆さんから多くのアイデアを盛り込みつつ、使われるようにしないといけない。難しい宿題を頂いたと感じる。一番大事な海辺ならではの皆さんの想いをどう形にしていけるか、小野寺先生とも相談しながら進めていきたい。

【デザイン会議・小野寺部会長】今日聞いた中で、検討していかないといけないと感じたアイデアを相当いただいた。くどける水辺がテーマではあるが、一方で、子供が目を離しても安全に使える場所にするには、大きな宿題かなと思っている。「多目的は無目的」にならないように、使う人が使い方や居場所が見つけられるような形を考えて提案していきたい。

# グループワーク 観光交流エリアの利活用アイデア（集約版）

非常に多かったアイデアには◎を、多かったアイデアには○をつけています。  
（イラストはws開催時点での観光交流エリアのデザイン案です）

## 海辺でつろぐ（おしゃれにまったり）

- ◎ 海辺のレストラン、カフェ（夕暮れ限定カフェ、水上レストラン 等）
- ◎ 海を見ながら読書（勉強）スペース（外で図書館）
- 家族みんなでつろげる空間（子どもには遊べて親は休める）
- ・ ハンモックがつけられるくらいの本木
- ・ 日陰ができる場所（植樹、東屋）
- ・ 遊覧船、海上コテージ
- ・ 海辺にサイクリング休憩スポット（駐輪スペースも）
- ・ 将棋小屋、瞑想スペース
- ・ 冬でも暖をとれる（風がしのげる）場所

## 海辺でイベント

- ◎ 四季折々のビックイベント（みなと祭り・漁火まつり（商工祭）、どんと祭、歳の市、盆の市の復活 獅子舞い 等）
- 定期的な映画、ライブイベント（駐車場・旧マリナル、海上で）
- マルシェ、朝市等の開催
- ・ 写真教室（夕日がきれいなポイント、絶景ポイントなどを選ぶ）
- ・ 観光交流エリアへの海ポタルの拡大
- ・ 花火大会の見物席・特等席（有料）
- ・ 釣り教室（子どもも安全に参加できる）
- ・ イベント荷物搬入用に車の乗り入れ可

## 海辺でLOVE

- ・ プロムナードを恋愛スポットに
- ・ プロムナードで結婚式（写真を流された方にもう一度結婚式）
- ・ 愛の場（鐘をならす）
- ・ デートコース整備

## 海辺を楽しむ（ワイワイにぎやかに）

- ◎ 絵や落書きが描ける場所、壁（高低差も利用）
- ◎ 釣り公園（穴釣り、専用エリア、浮桟橋・防波堤も釣り場に）
- 釣り関連の整備（餌の自販機、遊漁船受付 等）
- BBQ、いも煮、たき火スペース（火気使用可）
- 食事を楽しむ（ファストフード、ピザ釜、屋台、商店街から出前）
- 水上ボート等（ウミネコ・スワンボート、カヌー、シーカヤック）
- ・ 雨天時でも食事できるテント
- ・ 潮干狩りゾーン
- ・ 水遊び場（海水の水浴び場、噴水、飛び込み台（自己責任））
- ・ 生きた魚とのふれあいスペース（タッチプール）、魚の水槽
- ・ 砂遊びが出来る場所
- ・ 月数回の歩行者天国
- ・ 「こここぎ」が体験できるコーナー

## 広場で楽しむ・スポーツを楽しむ

- サイクリングロード、ランニング、ウォーキングコース
- バスケのコート、フットサル場
- ストリート系スポーツ（スケボーランプ、スラックライン、ボルダリング）
- ・ 遊具設置（芝生広場にシーパルちゃんモチーフ遊具 等）
- ・ 芝生で昼寝、ポーッとできる、弁当を食べる
- ・ 花見、ピクニック
- ・ ドッグラン、犬の散歩
- ・ キャッチボール、フリスビー
- ・ ストレッチ、ヨガ
- ・ セグウェイ通り（周遊コース）



## 快適に過ごすための施設

- ◎ トイレ設置(24H利用可、きれい、多機能、女性・子ども使いやすい)
- ◎ ベンチ設置（背もたれ、日本一長い100mベンチ、健康器具兼用、海が眺められるもの、読書用、LOVEチェア）
- ◎ シンボル・オブジェ設置（アメリカが一番近い像、津波到達点ボード、巨大な木、高村光太郎碑、シーパルちゃん）
- イベント、外来船用の倉庫、電気・水道供給（日常利用にも）
- ゴミ箱・喫煙所の設置・ルールの整備
- 駐車場は離島航路利用者用と分ける
- 更衣室、シャワー、足洗い場（ジョギング、海遊び、マリンスポーツ用）
- ・ 展望台(避難・観光)
- ・ 標識（日本語、英語、中国語など）
- ・ オシャレな照明（街路灯、明るく）、街灯に鳥よけの防鳥針
- ・ フィッシャリーナ近くに、陸上保管場所、修理施設が必要
- ・ 海を見ながら足湯・温泉

## その他の意見

- ・ 観光交流エリアですれ違う人は必ず手を挙げてあいさつするルール
- ・ JR最終便の繰り下げ、Suica利用可能に
- ・ 海底の掃除
- ・ ストーリー性のある地名に

## 安全安心対策

- ◎ ハシゴ、浮き輪の設置（海に落ちてても上がれるように）
- ◎ 交通安全対策（飛出対策、速度規制、チャッターバー設置 等）
- ・ 海辺に柵を設置
- ・ 避難道路を広く、わかりやすく
- ・ 特定の車両以外、水際は進入禁止

## デザインへの意見

- ・ 植栽の配慮（低木・広葉樹中心、子供が遊べるよう少なめに）
- ・ 海辺に小高い丘
- ・ 車イスなど問題なく通れる道
- ・ 高低差を緩和する斜めの道
- ・ 道路と広場を階段状にし、海を眺められるように
- ・ マリーナは浮桟橋に
- ・ 観光桟橋をプロムナードの先に移動(浮桟橋)
- ・ 眺望フレームには最初から屋根が欲しい（雨宿りスペースにも）
- ・ シーカヤック乗り場、釣り船専用の接岸エリア
- ・ 国道からも海が見えるように
- ・ 朝日、夕日、夜景がきれいなスポット（観光桟橋、市場、石浜）
- ・ 写真の撮れる風景（春は桜、夏は花火、秋は紅葉、冬は海ほたる）